

姉妹提携を
基盤にすすむ
「地方の国際化」



海外渡航自由化後初の修学旅行団が来熊(1989年)

地域レベルでの国際交流を……。熊本県では国際化を通じた地域の活性化を目指し、一九八二年(昭和五七年)五月に中国広西チワン族自治区と友好提携。同年七月には米国・モンタナ州と、翌年一月には大韓民国・忠清南道と姉妹提携。これらの提携を基盤に経済・文化交流、留学生や研修団の受け入れなど官民にわたって様々な交流が行われています。また「国際交流はお茶の間から」を合言葉に、ホームステイカン トリー熊本づくりが進められるなど、様々な形で「地方の国際化」が展開されています。



熊本国際青少年音楽フェスティバル

84

3・24

熊本テクノポリス開発計画の承認

8

4・23

Uターンアドバイザー制度の創設(全国初)

8

8・25

ロス五輪柔道金メダリスト山下泰裕六段に第一号の県民栄誉賞を授与

9

9・5

「熊本・明日へのシナリオ」の公表

9

9・27

「くまもと日本一づくり運動」のスタート(日本一づくり運動推進本部の設置)

10

10・15

通商産業省のニューメディア・コミュニケーション構想のモデル地域指定

11

11・1

第三セクター(株)熊本ビデオテックの設立

2

2・22

「くまもと緑の3倍増計画」の実施計画策定(県緑化推進本部)

4

4・23

「友・誘・遊くまもと」観光キャンペーンの開始(熊本県特別観光宣伝推進協議会の設立総会)

5

5・12

第36回全国植樹祭(於阿蘇・みんなの森(昭和天皇ご臨席))

6

6・3

熊本テクノポリス財団「電子応用機械技術研究所」の開所式

6

6・20

第一回「くまもとデザイン振興会議」(於東京)

6

6・21

県畜産試験場において分割卵移植による「コビー牛」誕生(九州で初めて)

DECADE

郷土に育ち、
郷土に生きる人材を

一九八四年(昭和五九年)全国に先がけて始められたUターンアドバイザー制度。成長する本県産業の高度技術者に対する需要増に応え、人材の確保を図ろうというものです。県東京事務所、大阪事務所、熊本公共職業安定所(人材銀行)にUターンアドバイザーを配置。高度専門技術を有するUターン希望者に県内での就職を援助し、着実な成果をあげています。

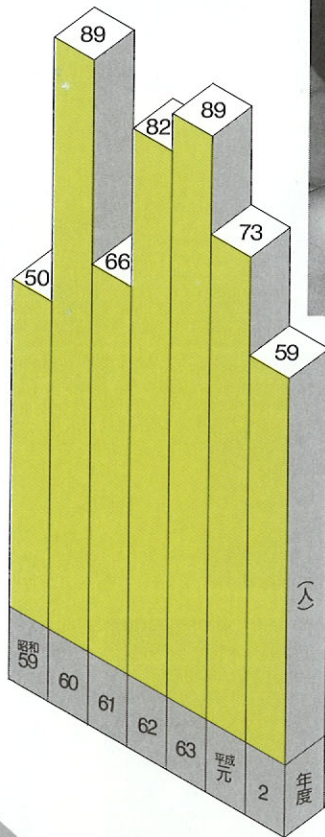
一方、産業・学術・文化など各方面にわたって活躍することのできる、個性と才能を伸ばす教育を目指して「特色ある学校づくり」が進められています。学科・コースの新設をはじめ、児



南関高校美術工芸コース

学校名	年度	特色ある学科・コース
南関高校	63	美術工芸コース
東稜高校	63	国際コース
阿蘇高校	63	国際観光科
鹿本農業高校	63	バイオ工学科
熊本工業高校	元	情報システム科
球磨工業高校	元	伝統建築コース
菊池農業高校	2	畜産科学科

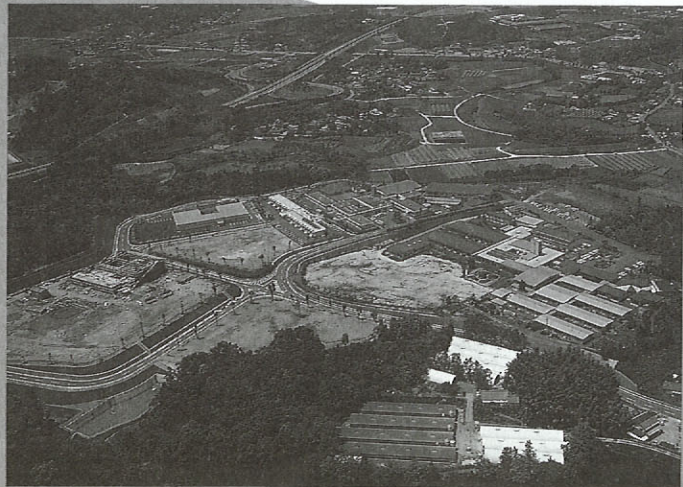
学科改編等による特色ある学校づくりの一部紹介



Uターン就職決定実績
(但し平成2年度は11月末日現在)

障害者、健常者、
地域住民一体の
福祉の里づくりを

地域の中で、高齢者や障害者が生き生きと生活できる福祉社会を目指している熊本県では、地域福祉や在宅福祉、それに社会参加の促進を重点に取り組みが進められてきました。その中で一九八一年(昭和五六年)には松橋町にある「希望の里」に、授産施設「くすの木園」が完成しました。続いて一九八五年(昭和六十年)、身体障害者多数雇用企業「希望の里ホンダ株」が第三セクター方式で設立。その後も次々に施設の整備が進むほか、プールやグラウンド、老人福祉センターなど地域住民が利用できる施設や公営住宅も整備。障害者と健常者、地域住民が共に働き、共に支えあいながら生活することができるよう福祉の里づくりが進行しています。



希望の里

86

4・1

第三セクターによる南阿蘇鉄道鉄道の開業

7

7・14

大規模年金保養基地「グリーンピア南阿蘇」の落成式(オープニング)

8

8・1

第四回都市緑化フェア「クマモトグリーンピック'86」の開幕(73日間)

9

9・9

皇太子殿下、皇太子妃殿下、「天皇陛下(昭和天皇)御在位六十年記念慶祝全国都市緑化祭」熊本グリーンサミット会議(開会式ご出席及び「全国都市緑化くまもとフェア」)視察のためご来熊

9

9・8

熊本テクノポリスセンター落成式

11

11・6

「熊本・明日へのシナリオ(県土デザイン編)」の公表

12

12・6

「熊本・明日へのシナリオ(県土デザイン編)」の公表

